## 基本条件の照査項目一覧表 (道路詳細設計)

(照　　査①)

幅杭設計4車線設計後の完成4車線設計

基本条件の照査項目一覧表(道路詳細設計１)

| No. | 項目 | 主な内容 | 提示資料 | 照査① | | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象 | 照査 |
| 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  11  12  13  14  15  16  17  18  19  20  21  22  23  24 | 設計の目的、主旨  貸与資料の確認  現地踏査結果  設計条件  施工区分  施工条件  幾何構造、線形条件  用地条件  協議関連資料  平面図作成  横断図  用排水設計  軟弱地盤  地すべり等のり面保護工  溝渠工  擁壁工  図面修正  排水工  舗装工  付属施設  関連道路（側道、副道、取付  交通）  防雪対策  環境及び景観検討  共通工 | 1) 設計の目的・主旨、範囲を理解したか。  2) 設計の内容、主な項目、工程等について具体的内容を把握し  たか。特記仕様書との整合は確認したか。  または、計画工程表を提出し内容を発注者と確認したか。  3) 技術提案がある場合は、作業計画書に技術提案の内容が反映さ  れているか。  1) 貸与資料は最新版であるか確認したか。また、不足点及び  追加事項があるか確認したか。不足がある場合には、  資料請求、追加調査等の提案を行ったか。  2) 事務所、路線毎に統一された基準要領があるか。  3) 申し送り事項を確認したか。  4) 基準・要領等があるか｡また、最新版であるか確認したか。  5) 最新の用地資料（幅杭、用地平面図等）はあるか。  1) 地形、地質、気象、用・排水、土地利用状況（用地）、  保安林や土砂災害指定地等の各種指定区域の有無を把握したか。  また、道路排水の接続先について確認したか。  2) 沿道状況(取付道路含む)、交通状況(自転車、歩行者含む)、  道路利用状況（通学路指定の有無、歩道構造、乗入部含む）、  河川状況等を把握したか。  3) 近接して施設及び人家等がある場合、盛土に伴う引込み沈下に  よる影響の懸念がないか確認したか。  4) 沿道及び社会環境状況 (日照、騒音、振動、電波状況、水  質汚濁、土壌汚染、動植物、井戸使用等) を把握したか。  また、環境調査等の資料の有無を確認し入手したか。  5) 台帳等を入手したうえで、支障物件の状況を把握したか。  (地下埋設物：下水、水道、ガス、電力、NTT、  通信、共同溝等及び架空線、樹木、名勝、旧跡等）)  6) 施工計画の条件に係わる現地状況を把握したか。（ヤード、工  事用水、濁水処理、工事用電力、工事用建物敷地、交通条件、  進入路、周辺関連工事の進捗状況等）  7) 施工済み構造物について工事完成図面は確認したか。また、現  地状況は整合しているか。  8) 発注者と合同で現地踏査を実施したか。  1) 設計に使用する技術基準、参考図書や各自治体における条例等  を確認したか。また、最新版であるか確認したか。  2) 整備計画（暫定計画・部分供用の有無等）を確認したか。  3) 道路区分を確認したか。  4) 設計速度を確認したか。  5) 計画交通量を確認したか。  6) 横断面構成を確認したか。  7) 適用基準を確認したか。  8) 気象条件及び環境条件を確認したか。  9) 飛地や用地分断等、用地図から機能補償道路に漏れがないか確  認しているか。  10) コントロールポイント条件は整理されているか。  11) 関連する設計と整合がとれているか。また、前段の設計を基  に詳細設計（修正設計）を行う場合、過年度経緯を確認し  成果の照査を行ったか。  12) 既往調査結果より、地質、地盤の性状及び地下水状況は確認  したか。  13) 測量成果の内容（測量座標系と座標、高さの基準と地形図、  線形との整合、震災補正の状況）などを確認したか。  14) 積雪寒冷地、およびその度が甚だしい地域の適用が適正か。  15) 休憩施設、チェーン着脱場等の計画は確認したか。  16) 施工時を含め、作用する荷重条件を確認したか。  17) 道路土工について、影響する作用、要求性能、重要度につい  て確認したか。  18) 盛土の重要度及び要求される性能は決定しているか。  19）維持管理への配慮  　　点検ルート、階段、てすり、橋梁部との整合はとれているか。  1) 完成施工か、暫定施工かの区分を把握したか。  2) 暫定施工の場合の施工車線 (AorBライン)を把握したか。  1) 工事時期と工程及び施工手順を確認したか。  2) 暫定施工時の施工区分を把握したか。  3) 現道拡幅時の施工区分を把握したか。  4) 施工計画に関する既存資料を入手・確認したか。  5) 施工に支障となる旧施設の撤去条件を確認したか。  6) 近接構造物等への影響を考慮する必要があるか。  1) 平面及び縦断線形の設計値及び縦断・横断視距の確保は適切か  （積雪寒冷地の適用の有無）。組み合わせは適正か。  また、修正設計の場合、設計条件のどの部分が変更となったか  確認したか。  2) 幾何構造の使用値（車線幅員、片勾配、視距等）は適正か。  3) 幅員構成は適正か。(標準幅員、積雪寒冷地路肩等)  4) 積雪寒冷地等の場合、積雪寒冷地等の地域特性を踏まえた幾何  構造の使用値となっているか。  5) 隣接工区や土工、橋梁、トンネル等との取合い（路肩摺り付け、  翼壁、排水処理、構造物掘削等）を配慮したか。  6) 幅員の決定根拠は明確で適正か。（道路規格との適合、積雪寒  冷地の適用及び堆雪幅、道路付属施設に配慮した有効幅員の  確保など）  7) 溝渠工の上部では排水施設や通信管路等埋設物、防護柵の設置  に必要な土被りが確保されているか。  8) 交差施設との交差条件は明確か。（交差方法、交差角、幅員、  建築限界、余裕高など）  9) 分合流部の幾何構造採用値は適正か。また、分流部のオフセッ  トについて確認したか。  1）用地上の幅杭表はあるか。  2) 用地に関する制約は確認したか。  3) 用地巾の過不足はないか。  1) 関連機関（関係諸官庁、諸機関）との調整内容を確認したか。  2) 河川協議、海岸・地すべり防止・土砂災害警戒区域等との協議、  近接・交差協議、流末協議は適切に実施されているか。  3) 交差協議の調整は確認したか。  (特に幅杭設計後の変更の確認)  4) 地元及び地権者との調整は確認したか。  (特に幅杭設計完了後に用排水工の変更の確認)  5) バス路線になるかどうか確認したか。  6) 地下占有企業者との調整は確認したか。  7) 砂防指定、保安林及び埋蔵文化財等との調整は確認したか。  8) 各県公害防止条例の適用 区域及び規制値を確認したか。  9) 都市計画及び土地利用、用途地域、借地の有無等を確認したか。  10) 配慮すべき法令は確認したか。  11)本線外盛土場、または土取場の位置、規模は確認したか。  1) 幅杭設計の成果 (1/1,000平面図)を修正する必要が  あるかを確認したか。  2) 図面修正に於ける協議関連等の条件整理をしたか。  3) 側道等に於いて他機関 (市町村等)の施行となる区間  の有無を確認したか。  1) トンネル詳細設計、橋梁詳細設計等の成果を確認したか。  2）幅杭設計の積算用横断図を補足修正する箇所及び項目を確認し  たか。  1) 用水系統は適正か。また、用水路の統廃合について、土地改良  区や地元での聞き取り調査等、関係者との調整は整っているか。  2) 排水系統は適正か（曲線部の片勾配高さを反映）。また、水路  管理者等と調整を行っているか。  3) 盛土構造の基盤排水、法尻排水は適正か。また、切盛境、片切  片盛り、沢部盛土等の排水処理は適正か。  4) 調整池や油水分離桝設置の必要性や関係機関との協議結果を  確認したか。  5) 流末協議（放流先や途中の既設水路）は適正に実施されている  か。  1) 実施済みの設計に、追加、変更する必要があるか、確認したか。  2) 軟弱地盤の分布について調査・確認されているか。また、存在  する場合、対策の必要性、工法等が整理されているか。  3) 盛土の施工期間及び施工方法(迂回路計画等)は決まっている  か。  4) 盛土施工厚と施工工程とのバランスがとれているか。(緩速盛  土、プレロード及びサーチャジ工法等の地盤強度増加と施工時  及び完成後の盛土の安定性）  5) 残留沈下量と交通解放時期の基本方針は決定しているか。  6) 地質調査は目的にあった調査、解析をしているか。  7) 盛土材の土質試験はしてあるか。また、その土質定数は把握し  ているか。  8) 軟弱地盤解析項目（円弧すべり、圧密沈下、液状化）の許容値  は適正か。また、周辺の土地利用を考慮した許容値としているか。  9) 軟弱地盤上に設置される溝渠の場合、残留沈下量に対する内空  断面の対策は考慮されているか。  10) 環境、用地に対する制限はないか。また、影響を検討する家  屋や施設、地下埋設物はないか。  11) 置き換え残土の処理場はあるか。  12) 側方流動の影響を受ける構造物(擁壁、橋台等)及び沿道施設  はないか。  1) 実施済みの設計に、追加、変更する必要があるか、確認したか。  2) 土質定数（湿潤重量、飽和重量など）の設定、地下水位、湧水  状況等の把握は適正か。また、地質データが不足する場合、  追加調査の提案等を行ったか。  3) 切土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅、ラウンデ  ィング形状は適切か。  4) 盛土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅は適切か。  5) 切土あるいは盛土による斜面の安定検討は必要か。  6) 切土材料は盛土材料に転用できるのか。  7) 法面対策工法の必要性について整理しているか。  8) 土砂の処理場や採取場及び土運搬経路の把握はしてあるか。  9) 環境や景観に関して考慮しているか。  10) 盛土材の設計条件は適切か。  　・盛土材料の使用区分、建設発生土利用（スレーキング材、  　　高含水材等）への配慮  　・盛土材物性値（路体盛土の土質定数、路床盛土のCBR）"  11) 土質定数は溝渠工・擁壁工設計との整合性を考慮して設定して  いるか。  1) 標準設計の適用方法は適正か。  2) 同上を適用しないときは応力計算が必要か。  3) 防護柵の要・不要の確認。(内空断面の再確認)  4) 従来型カルバートの適用範囲内か、また、重要度区分、要求性  能は決定しているか。  5) 耐震設計が必要な場合、設計手法は適切か。  6) プレキャスト製品の適用方法は適正か 。市場性や地域性など  を考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を確認  したか。  7) 施工条件を考慮しているか。  8) 縦断方向のすべりに対する対策は必要か。  9) 縦断方向（構造物方向）の設計の必要性は確認したか。  10) 踏掛版の必要性を確認したか。（ヤード、資機材運搬路等）  11) 溝渠内、溝渠頂版上部の防護柵の必要性を確認したか。  12) 土被りの条件は妥当か。(設計計算)  13) 土被りによる断面変化は考慮してあるか。  14) 土質定数の決定根拠は明確になっているか。  15) 地盤条件 (支持力、地下水位等) は整理してあるか。  16) 設計計算の条件は妥当か。計算式の適用は確認されて  いるか。  17) 適用する設計基準は確認されているか。  18) 躯体の延長やウイングの形状（高さ、長さ、巻き込みとの取  り合い）の決定根拠は適正か。  19) 内空断面（幅員、建築限界、河川条件、溝渠内舗装、路面排  水施設、占用物件（証明、水道、ガスなど）、片勾配、照明、  平面形状、縦断勾配の設定は適正か。  20) 塩害に対する検討の必要性を確認したか。  1) 自動設計の適用方法は適正か。  2) 所要高さ決定の根拠は適正か。道路線形との整合はとれている  か。  3) 種別・型式選定の根拠や適用範囲（高さ、延長、地形条件等）  は適正か。  4) 線形の変更、用地の利用、擁壁構造変更等によって擁壁の規模  縮小が可能か。また、工夫を行う余地があるか。  5) 耐震設計が必要な場合、設計手法は適切か。  6) 二次製品の適用は適正か。市場性や地域性などを考慮して  いるか。また、隣接工区での使用状況等を確認したか。  7) 用地境界までの余裕幅を確認したか。  8) 土質定数の決定根拠は明確になっているか。  9) 基礎型式選定のための地盤条件は整理されているか。  10) 施工条件（現道交通、施工ヤード、資機材運搬路）を考慮し  ているか。  11) 現道交通、隣接家屋への影響を配慮したか。  12) 全体的なすべりの安定性は確認したか。  13) 設計計算の条件は妥当か。計算式の適用は確認されて  いるか。(プログラム等)  14〉適用する設計基準は確認されているか。  15) 擁壁の重要度区分、要求性能の設定は適切か。  16) 衝突荷重を見込む構造か。遮音壁は設置されるか。  また、その場合の風荷重は適正か。  17) 地覆、高欄、防護柵、転落防止柵は適正か。  18) 塩害に対する検討の必要性を確認したか。  19) 根入れやフーチング上の土被りは適正か。（交差条件等）  1) 幅杭設計の成果に対する修正範囲を把握したか。  2) 修正に必要なトンネル設計及び橋梁設計等の成果品を  確認したか。  1) 降雨強度、確率年、算定式、流出係数、粗度係数の設定は適正  か。  2) 通水量の算定は妥当か。(粗度係数等)  3) 路肩側溝や横断管などの排水施設の選定は妥当か。  （経済性、施工性、機能性、計画性、維持管理）  4) 断面余裕の設定は適正か。  5) 排水勾配(流速の許容範囲)は妥当か。  6) 最小土被りの設定は妥当か。  7) 協議が必要となる関連機関、協議事項について整理・把握され  ているか。  8) 地下排水工（地下排水溝、水平排水層、基盤排水層等）や盛土  内水平排水工は適切に設置されているか。また、地盤条件は  考慮しているか。  9) 排水構造物は排水性舗装に適合しているか。  10) 地下埋設物との調整（占用者との協議を含む）は確認したか。  11) プレキャスト製品の適用方法は適正か。市場性や地域性など  を考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を確認  したか。  1) 設計条件を確認したか。（交通量区分、舗装の設計期間、舗装  の種別、疲労破壊輪数、舗装計画交通量、信頼度、設計ＣＢＲ、  必要ＴA、適用箇所、寒冷地域の凍結深さ等）  2) 仕様規定か性能規定を確認したか。  3) 規定条件を満足しているか。  4) 再生材の使用は考慮されているか。また、再生材は所定量入手  可能か確認したか。  5) 特別箇所(軟弱地盤、低盛土等)の路床改良の要否を確認した  か。  6) 路盤材料は市場性や地域性などを考慮しているか。また、隣接  工区での使用状況等を確認したか。  1) 設計が必要な付属施設や道路施設は確認されているか。  2) 配置及び規格は適正か。  3) 種別及び設置条件は適正か。  4) 設置のための事前調査は実施されているか。  5) 防護柵の要否、設置基準の確認、種別の選択、設置条件、標準  仕様の適用等は適正か。  6) 景観、環境及び歩行者の安全に配慮されているか。  1) 幅員、延長、断面、道路幾何構造は適正か。  2) 沿道に対する高さ等の取合は考慮してあるか。  3) 舗装構成は決定しているか。  4) 関連協議で必要事項は確認されているか。  1) 雪崩、地吹雪対策は考慮する必要があるか。  2) 雪況調査は実施されていたか。  3) 対策工設置のための用地を設定したか。また埋設物や支障物件  を確認したか。  1) 景観検討の必要性、方針、内容、範囲等を理解したか。また、  遮音壁等の設置要件（位置、基礎構造）に問題はないか。  2) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなってい  るか。  1）設計・施工基準を持たない新しい材料・製品・構造部材等の  　採用条件及び採用範囲は確認したか。 | 作業計画書  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  現場写真他  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  用地幅調書  設計図書  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃    〃  〃    〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  打合せ・記録簿 |  |  |  |

## 細部条件及び図面作成等の照査項目一覧表 (道路詳細設計)

(照 査②)

幅杭設計4車線設計後の完成4車線設計

細部条件及び図面作成等の照査項目一覧表（道路詳細設計 2）

| No. | 項目 | 主な内容 | 提示資料 | 照査② | | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象 | 照査 |
| 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  11  12  13  14  15 | 協議関連  設計基本条件  一般図  平面図作成  横断図作成  土工及び法面工  溝渠工  共通  ボックスカルバート  門型カルバート  アーチカルバート  本線用カルバート  パイプカルバート  擁壁工  共　　通  U型擁壁  もたれ擁壁  補強土壁  排水工  舗装工  付属施設  軟弱地盤対策工  施工計画  環境及び景観検討  共通工 | 1）協議は諸条件と合致しているか。  1）新技術の採用について検討したか。  1）平面図、縦断図、横断図は設計基本条件と整合が図  られているか。  1) 1/1,000平面図  a) 幅杭設計の成果品の修正は適正か。  b) 取付・付替道水路、側道、用排水路等は適正に表示  されているかを確認したか。  c) 橋梁、トンネル及び交差構造物等は正しく表示され  ているかを確認したか。  d) 排水系統図との整合性を確認したか。  e) 車線、側帯、路肩、保護路肩及び積雪寒冷地に於け  る管理用帯は適切に表示されているかを確認したか。  f) 視距の確保による拡幅は適正に表示されているか。  9) 軟弱地盤処理工及び地すべり等の対策工を土質・地  質調査報告書との整合を確認したか。  2) 1/500平面図 (連絡等施設)  a) 1/1,000平面図、縦・横断図、及び排水系統図等よ  りの展開は適正に表示されているか。  3) 1/200詳細平面図 (連絡等施設)  a) 平面及び縦断線形は適正か。  b) 幅員線 (車線、側帯、路肩、保護路肩、積雪寒冷地  に於ける管理用施設帯) の表示 は適正か。  c) 幅員及び路面計画高の表示は適正か。  4) 平面線形図  a) 線形の変化点、IP点及び座標値の記入は適正に表示  されているか。  b) 線形の始終点及びノーズ点における離れは適正に表  示されているか。  5) 伐開除根求積図  a) 伐開除根の範囲は適正か。  b) 伐開 除根土の処理方法について  6)路線図  a) 橋梁及びトンネルの表示は適切か。  b) 交差する主要道路及び河川等の名称表示は適切か。  c) 工事用道路の表示は適切か。  d) 土取場・本線外盛土場の表示は適切か。  1)横断図  a) 幅員構成要素とその値は適正に図化されているか。  b) 特殊部の位置及び構成要素とその値は適正に図化さ  れているか。  (堆雪余裕幅、遮音築堤、登坂車線、非常駐車帯、視距拡幅)  c) 片勾配のすり付け及び合成勾配は適切か。  d) 切土・盛土の小段高、小段幅、のり勾配は適切か。  e) 切土部の保護路肩の構造は適切か。  f) のり面勾配の連続性は適切か。 '  9) のり面保護工の選択は適切か。  h) 切土部に設置する側道の小段勾配は適切か。  i) 橋梁、トンネルとの整合はとれているか。  j) 排水工検討からの修正 (断面・高さ・勾配) はされ  ているか。  k) 平面展開から取付・付替道路 (水路)との整合がと  れているか確認した か。  ｌ) 土性区分の記入は適切か。  m) 土工基面部の旗上げ、高さ表示はされているか。  n) 断面積、のり長、のり面仕上げ等の記入旗上げはさ  れているか。  o) 軟弱地盤処理工及び地すべり等の対策を土質・地質  調査報告書との整合性を確認したか。  2) 標準横断図作成  a) 作成箇所 (STA)は適切か。  b) 横断面構成の表示は適切か。  3) 横断軸線図 (連絡等施設)  a) 測量及び幅杭設計の成果品との整合を確認したか  b) 表示は適正か。  1) 岩盤推定線は記入されているか。また、その根拠が整理されて  いるか。  2) 用地の余裕幅は適正か。  3) 法面保護工の選定は適正か。また、法面対策工法（アンカー、  ロックボルト）の計算根拠は適正か。  4) 法面構造（勾配、形状、小段、排水施設等）は適正か。  5) 盛土に要求される性能は満足するか。  6) 排水対策は適正か。  1) 本体長、伸縮目地及びブロック割りの決定方法は適正か。  2) 軟弱地盤上に構築される場合の鉛直土圧係数は考慮してある  か。(杭基礎などの場合)  3) 沈下の大きい場所での特別の処置(段落ち防止枕等）は考慮して  いるか。  4) 不等沈下はないか。  5) 標準設計適用以外の応力チェックはされているか。  6) ハンチの形状は妥当か。また、ハンチを設けない場合の部材厚  は適切か。  7) ウイングの厚さやウィングのハンチの大きさは適切か。  8) 防水工および継手構造は適切か。  9) 照明配管、排水は考慮されているか。  10) 構造細目および配筋に対するチェック（使用鉄筋径、組合せ、  鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、フック形状、  スターラップ筋の加工形状等）はされているか。  11) ウイングの形状及び設計計算は妥当か。  12) 基礎地盤の状態及び施工性は考慮されているか。  13) 置換え基礎及び基礎工の選定は適切か。また、隣接する擁壁  等との基礎工との整合は図られているか。  14) 斜角のつく場合の考慮をしてあるか。  (斜角部の設計方法)  15) 踏掛版の形状、寸法は適正か。  16) 管理上の問題は残されていないか。（道路、水路等）  17) 現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。また、プレキャ  ストの場合、現場条件と適用条件の整合を確認したか。  18) 耐震設計の方法は適正か。  19) 施工時の切り回し計画は妥当か。  20) 使用材料は明記されているか。さらに、許容応力度は妥当か。  21) 地下水や液状化地盤に対する検討がされているか。  （浮上り検討）  22) 想定している埋戻土の土質定数は適切か。  23) 設計計算により使用するプログラムの打合せを行ったか。  1) 活荷重に対する検討を考慮してあるか。  2) 乾燥収縮、温度変化に対する検討は適切か。  3) アンダーパス、貯留型避溢カルバート等に於ける  水圧の影響を考慮した検討がなされているか。  4) サイロ効果の検討は適切か。  5) 軟弱地盤におけるカルバートの上げ越しと、内空断面  の余裕は適切か。  1) 地震時の応力検討は適切か。  2) 乾燥収縮、温度変化に対する検討は適切か。  3) ストラットの考え方は適切か。  1) 軸線は施工性、経済性を考慮したものとなっているか。  2) 荷重の組合せ (活荷重、土圧、雪荷重等) は適切か。  3) 偏土圧による安定度及び部材応力の検討は適切か。  4) 工事用車輌も含めた施工応力の検討は適切か。  1) 視距及び諸施設の設置空間断面となっているかを確認したか。  2) 舗装、排水及び躯体の形状は適切か。  3) 活荷重の載荷位置は適切か。  4) 衝突荷重、乾燥収縮、温度変化に対する検討は適切か。  1）活荷重及び死荷重等の荷重係数は適切か。  2）管種 (継手を含む) 及び基礎の選定は適切か。  3) 半溝型及び突出型に於ける設計条件は明示されているか。  4）インレット、アウトレットの構造等は適切か。  5) 軟弱地盤上の配慮は適切か。  1) 擁壁高さの決定、地山の取合、底面の勾配は適正か。  2) 型式選定の根拠は適正か。  3) 線形の変更、用地の利用 等によって擁壁の規模縮小力  可能であるかどうか工夫したか。  4) 背面土の適用は適正か。(施工時の安定性等)  5) 目地間隔は適正か。  6〉液状化の検討は適正か。  7) 基礎工の選定は適正か。また、斜面上の基礎の場合、地盤の傾  斜を考慮した検討を行っているか。  ・直接基礎 (地盤反力、安定、置換深さ等)  ・杭基礎 (杭間隔、杭種、杭径、定着方式等)  8) 根入れ深さは適正か(土質条件、水の影響)、斜面部で  の余裕幅は適正か。  9) 地下水、湧水等の処理について考慮してあるか。  10) 施工性を考えた構造となっているか。  (地形その他の現場条件による機械の選定条件等)  11) 応力計算時の常時、地震時の選択は適正か。  12) 耐震設計の方法は適正か。  13) 擁壁天端のステップ幅は確保されているか。  14) 防護棚の要否及び支柱基礎に対する検討をしたか。  15) 配筋に対するチェックはされているか。  16) 擁壁天端に作用する荷重は適正か。（衝突荷重、風荷重等）  17) 地下埋設物との取り合いは問題ないか。  18) 構造細目は妥当か。（使用鉄筋径、組合せ、かぶり、ピッチ、  継手、折り曲げ位置、フック形状、スターラップ筋の加工形状、  補強材の長さ等）  19) 使用材料は明記されているか。さらに、許容応力度は妥当か。  20) 想定している埋戻土の土質定数は適切か。  21) 設計計算により使用するプログラムの打合せを行ったか。  1) 水平方向及び鉛直方向の地盤反力係数は適正か。  2) 地下水の影響を考慮し、浮力に対する安定性の検討は  適正か。  1) 路肩付近に設置する擁壁の場合根入れ深さ及び底面幅  は道路横断構成、管理用施設、及び排水構造物等の条  件に対し適切か。  1) 設計荷重の組合せは適正か。  (自重、載荷重、土圧、雪荷重、道路防護棚への衝突  荷重、地震時)  2) 最少土被り厚、縦断勾配の処理、排水処理は適正か。  3) 補強材の水平間隔及び長さは適正か。  4) 段違い部の基礎工は掘削線を考慮しているか。  1) 排水施設相互及び道路施設との取合いは考慮されているか。  2) 安全対策(蓋、防護柵等)は考慮されているか。  3) 流末はチェックされているか。(流末河川のＨＷＬより下の場  合の対策が行われているか。）  4) 最終流末までの流下能力、断面に不足は無いか。  5) 排水系統図を作成しているか。また、排水系統は適正で、協議  結果が反映されているか。  6) 現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。また、管理者の  指定する基準等に準じているかを確認したか。  7) 設計区間外の施設との取合いは考慮されているか。  8) 既設水路等の付替えは、必要に応じ切廻しを検討してあるか。  9) 道路路面の片勾配摺付け区間において、路肩排水施設等の滞水  は無いか。  10) 排水ますと縦断サグ点との位置関係に問題はないか。  1) 舗装工の設計は適正か。（舗装材料、舗装構成、構築路床等）  2) 段階施工のできる設計となっているか。  3) 再生材の使用は適正か。  4) 従道路及び車輌乗り入れ部の舗装構成は適正か。  1) 設計が必要な交通安全施設（防護柵、照明施設等）、交通管理  施設（情報ボックス、道路標識、マーキング等）等は確認  されているか。  2) 標準設計図集の適用は適正か。  3) 道路条件（幅員、断面形状等）を確認したか。  4) 土質条件は適正か。  5) 型式及び形状の選定は適正か。  6) 基礎工の選定は適正か。  1) 土質定数は整理されているか。  2) 盛土工程は適切か。(一般盛土部、構造物、交通、水路切り廻し  等)  3) 対策工の必要性と工種及びその範囲は適正か。また、構造物基  礎工と連動して、改良余裕幅や緩衝帯の設置を確認したか。  　・盛土安定対策  　・沈下対策  　・液状化対策  　・その他  4) サンドマットの厚さは施工性を考慮したか。  5) 動態観測の計画は作成されているか。  6) 暗渠排水計画(形状、間隔)は適正か。  7) 沈下量を土量計算しているか。  8) 用排水路で沈下すると不都合なものはないか。ある場合はその  対策は適切か。  9) 周辺地盤・施設に対する影響を確認し、必要に応じて対策方法  を検討しているか。  1) 工区分けは適正か。(暫定施工の有無を含む)　また、土量バラ  ンスや運土計画を考慮しているか。  2) 他事業や他工事との土配処理等の整合を確認したか。  3) 打合せ事項は反映されているか。  4) 施工方法及び手順は妥当か。また、他工区と施工時期の調整は  取れているか。支障物や埋設物の撤去・移設は考慮しているか。  5) 暫定施工の考え方（幅員の整合、線形のすりつけなど）に問題  はないか。  6) 工事用道路（長尺物等の搬入）の経路・勾配は妥当か。  1) 事業中、完成後の環境対策（騒音・振動、自然由来の重金属、  動植物等）は妥当か。また、騒音・振動等は規制値を満足  しているか。  2) 景観(植裁等)性は妥当か。  1) 道路構造物の部材の一部の損傷等が原因となって構造等の  　崩壊等の致命的な状態に陥る可能性を回避した設計となって  　いるか。  2）点検や調査を行うための通路が確保されているか。  3）補修・補強が想定される部材について、補強・補修を行う  　想定ができた設計とされているか。  4) 設計要領との違い、設計要領に基づかない場合の根拠の記述  　はあるか。 | 打合せ・記録簿  打合せ・記録簿  設計図書  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  設計図書  〃  〃  設計図書  〃  設計図書  報告書  設計図書  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  設計図書  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書及び  設計計算書・  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  設計計算書  〃  〃  〃  設計計算書及  設計図書  設計計算書  〃  設計図書  報告書  設計計算書  〃  〃  設計図書  及び報告書  設計図書  設計計算書  設計計算書  設計図書  〃  〃  〃  設計計算書・  設計図書及び  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  設計計算書  〃  設計図書  設計計算書  設計図書  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  報告書  〃  設計図書  打合せ・記録簿  〃  〃  〃 |  |  |  |

## 成果品の照査項目一覧表 (道路詳細設計)

(照 査③)

幅杭設計4車線設計後の完成4車線設計

成果品の照査項目一覧表（道路詳細設計 3）

| No. | 項目 | 主な内容 | 提示資料 | 照査③ | | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象 | 照査 |
| 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  11 | 土量集計及びマスカーブ  詳細図乍成  設計計算書  設計図  数量計算書  施工計画  設計調書  設計概要書  赤黄チェック  報告書  TECRISの登録 | 1) トンネルズリ及び構造物残土等の流用土を考慮したか。  (別途設計のトンネル詳細設計及び橋梁詳細設計等の参照)  2) 道路等施設に於ける土量配分を考慮したか。  3) 土量変化率及び土量の補正は適正か。  4) 横方向土量を考慮しているかを確認したか。  5) 盛土に於ける控除土量の算出は適正か。  1)施工図  a) メーソンリ一工及び特殊のり画工等の展開図は(寸  法も含む) 適正か。  b) 基礎地盤安定工等に於ける施工範囲の表示 は適正か。  c) 細部詳細材料表 (品名、材質、単位、数量等) 及び  寸法の表示は適正か。  2)詳細図  a) 縮尺及び図の配置は適切か。  b) 材料表(品名、材質、単位、数量等)の表示は適正か。  1) 打合せ事項は反映されているか。  2) 設計条件、施工条件は適正に反映されているか。  3) インプットされた値は適正か。  4) 各検討設計ケースは適切か。  5) 安定計算結果は許容値を満たすか。  6) 荷重、許容応力度の取り方は正しいか。  7) 用排水の流出量と通水量を照査したか。  8) 荷重図、モーメント図等は描かれているか。  9) 施工を配慮した計算となっているか。  10) 応力度は許容値を満たしているか。また、単位は適正か。  11) 隣接工区との整合はとれているか。  12) 赤黄チェック等による指摘内容に基づき、設計計算書を適正  に修正したか。  13) 図・表の表示は適正か。  14）安全率のとり方は適正か。  1) 縮尺、用紙サイズ等は契約図書及び共通仕様書、または、特記  仕様書と整合しているか。  2) 打合せ事項は反映されているか。  3) 構造物 (溝渠、擁壁等) の全体一般図に必要な項目は  記載されているか。(設計条件、地質条件等)  4) 工事にあたっての留意点を記載したか。  5) 起点・終点は適正か。  6) 必要寸法、部材形状及び寸法等にもれはないか。  7) 使用材料及びその配置は計算書と一致しているか。  8) 設計図に防護柵の材料の仕様を明記しているか。  （T-20対応，JIS番号，防錆処理HDZ55等）  9) 表現方法は適正か。  10) 解り易い注記がついているか。  11) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。  （特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合  しているか。）  　・かぶり  　・壁厚  　・鉄筋（径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、  　　主鉄筋の定着長、段落し位置、ガス圧接位置）  　・鋼材形状、寸法  　・使用材料  　・その他  12) 補足修正又は変更となる箇所及び項目の設計及び図面  作成は適正か。  13) 側道等に於いて他機関施行となる区分の表示は適切か。  14) 鉄筋同士の干渉はないか。または鉄筋と干渉する部材がない  か。  15) 施工に配慮した設計図となっているか。  16) レイアウト、配置、文字サイズ等は適切か。  17) 赤黄チェック等による指摘内容に基づき、設計図を適正  に修正したか。  18) 図面が明瞭に描かれているか。（構造物と寸法線の使いわけ  がなされているか。）  19) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。  1) 数量計算は数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。  (有効数字、位取り、単位、区分等)  2) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。  3) 数量取りまとめは、種類毎に、材料毎に、打合せ区分  毎にまとめられているか。  4) 数量計算の根拠となる資料（根拠図等）は作成しているか。  5) 施工区分及び段階施工、暫定施工を考慮した数量計算書となっ  ているか。  6) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。  7) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと整合  し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。  8) 使用する材料の規格及び強度等は記入されているか。  9) 赤黄チェック等による指摘内容に基づき、数量計算書を適正に  修正したか。  1) 施工方法、施工手順が妥当であるか。  2) 施工時の道路、河川等の切り廻し計画は適正か｡  3) 経済性、安全性（自動車、自転車、歩行者）が配慮されている  か。  4) 工事用道路、運搬路計画は適正か。  5) 施工ヤ－ド、施工スペ－スは確保されているか｡  6) 暫定計画、完成計画との整合はとれているか。  7) 全体事業計画との整合が図られているか。  8) 関係法令を遵守した計画になっているか。  9) 施工に対する申送り事項が記載されているか。  1) 設計調書の記入は適正になされているか。  2)設計条件、幾何条件、主要寸法、主要数量  （例、m2当たりコンクリート量、m3当たり鉄筋量、  m2当たり鋼重等）を類似例、一般例と比較したか。  1）設計概要書は作成したか。  1）赤黄チェック等により照査したか。  1) 報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足してい  るか。  2) 打合せ協議事項は反映されているか。  3) 条件設定及び設計条件の考え方が整合しているか。  4) 比較、検討の経緯及び結果が整理されているか。  5) 今後の課題、施工上の申し送り事項及び工事発注に際して  の留意事項が記述されているか。  6) 設計基準値を技術指針等より引用している場合には出  典図書名及びページを明記しているか。  7）設計・施工基準をもたない新しい材料・製品・構造部材等の  　採用条件及び採用範囲は明記しているか。  8）将来の安全や維持管理の観点から計画・設計・施工・維持管理  　に配慮すべき事項を明示しているか。  9) 「調査等業務の電子納品要領」に基づいて適正に作成したか。  10)今後の課題、施工上の申し送り事項等が整理されているか。  1）TECRISの登録はされたか。  2) TECRISの内容について、発注者と確認を行ったか。 | 数量計算書  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  設計図書  〃  設計計算書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  数量計算書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計調書  〃  報告書  赤黄チェック  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  登録証明書  〃 |  |  | ※赤黄チェックの資料は  監督員に提出し、確認結  果の回答時に返却する |

## 基本条件の照査項目一覧表 (道路詳細設計)

(照 査①)

幅杭設計4車線設計後の暫定2車線設計

基本条件の照査項目一覧表（道路詳細設計1）

| No. | 項目 | 主な内容 | 提示資料 | 照査① | | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象 | 照査 |
| 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  11  12  13  14  15  16  17  18  19  20  21  22  23  25 | 設計の目的、主旨  貸与資料の確認  現地踏査結果  設計条件  施工区分  施工条件  幾何構造、線形条件  用地条件  協議関連資料  縦断設計及び  縦断図作成  (本 線)  平面図、横断図作成  (本 線)  用排水設計  軟弱地盤  地すべり等のり面保護工  溝渠工  擁壁工  図面修正  排水工  舗装工  付属施設  関連道路(側道､副道､取付  交通)  防雪対策  環境及び景観検討  共通工 | 1) 設計の目的・主旨、範囲を理解したか。  2) 設計の内容、主な項目、工程等について具体的内容を把握し  たか。特記仕様書との整合は確認したか。  または、計画工程表を提出し内容を発注者と確認したか。  3) 技術提案がある場合は、作業計画書に技術提案の内容が反映さ  れているか。  1) 貸与資料は最新版であるか確認したか。また、不足点及び  追加事項があるか確認したか。不足がある場合には、  資料請求、追加調査等の提案を行ったか。  2) 事務所、路線毎に統一された基準要領があるか。  3) 申し送り事項を確認したか。  4) 基準・要領等があるか｡また、最新版であるか確認したか。  5) 最新の用地資料（幅杭、用地平面図等）はあるか。  1) 地形、地質、気象、用・排水、土地利用状況（用地）、  保安林や土砂災害指定地等の各種指定区域の有無を把握したか。  また、道路排水の接続先について確認したか。  2) 沿道状況(取付道路、取付坂路含む)、交通状況(自転車、  歩行者含む)、道路利用状況（通学路指定の有無、歩道構造、  乗入部含む）、河川状況等を把握したか。  3) 近接して施設及び人家等がある場合、盛土に伴う引込み沈下に  よる影響の懸念がないか確認したか。  4) 沿道及び社会環境状況 (日照、騒音、振動、電波状況、水  質汚濁、土壌汚染、動植物、井戸使用等）等) を把握  したか。また、環境調査等の資料の有無を確認し入手したか。  5) 台帳等を入手したうえで、支障物件の状況を把握したか。  (地下埋設物：下水、水道、ガス、電力、NTT、  通信、共同溝等及び架空線、樹木、名勝、旧跡等）)  6) 施工計画の条件に係わる現地状況を把握したか。（ヤード、工  事用水、濁水処理、工事用電力、工事用建物敷地、交通条件、  進入路、周辺関連工事の進捗状況等）  7) 施工済み構造物について工事完成図面は確認したか。また、現  地状況は整合しているか。  8) 発注者と合同で現地踏査を実施したか。  1) 設計に使用する技術基準、参考図書や各自治体における条例等  を確認したか。また、最新版であるか確認したか。  2) 整備計画（暫定計画・部分供用の有無等）を確認したか。  3) 道路区分を確認したか。  4) 設計速度を確認したか。  5) 計画交通量を確認したか。  6) 横断面構成を確認したか。  7) 適用基準を確認したか。  8) 気象条件及び環境条件を確認したか。  9) 飛地や用地分断等、用地図から機能補償道路に漏れがないか確  認しているか。  10) コントロールポイント条件は整理されているか。  11) 関連する設計と整合がとれているか。また、前段の設計を基  に詳細設計（修正設計）を行う場合、過年度経緯を確認し  成果の照査を行ったか。  12) 既往調査結果より、地質、地盤の性状及び地下水状況は確認  したか。  13) 測量成果の内容（測量座標系と座標、高さの基準と地形図、  線形との整合、震災補正の状況）などを確認したか。  14) 積雪寒冷地、およびその度が甚だしい地域の適用が適正か。  15) 休憩施設、チェーン着脱場等の計画は確認したか。  16) 施工時を含め、作用する荷重条件を確認したか。  17) 道路土工について、影響する作用、要求性能、重要度につい  て確認したか。  18) 盛土の重要度及び要求される性能は決定しているか。  19）維持管理への配慮  　点検ルート、階段、手摺、橋梁部との整合はとれているか。  1) 完成施工か、暫定施工かの区分を把握したか。  2) 暫定施工の場合の施工車線 (AorBライン)を把握したか。  1) 工事時期と工程及び施工手順を確認したか。  2) 暫定施工時の施工区分を把握したか。  3) 現道拡幅時の施工区分を把握したか。  4) 施工計画に関する既存資料を入手・確認したか。  5) 施工に支障となる旧施設の撤去条件を確認したか。  6) 近接構造物等への影響を考慮する必要があるか。  1) 平面及び縦断線形の設計値及び縦断・横断視距の確保は適切か  （積雪寒冷地の適用の有無）。組み合わせは適正か。また、  修正設計の場合、設計条件のどの部分が変更となったか  確認したか。  2) 幾何構造の使用値（歩道の有無、車線幅員、片勾配、視距等）  は適正か。  3) 幅員構成は適正か。(標準幅員、積雪寒冷地路肩等)  4) 積雪寒冷地等の場合、積雪寒冷地等の地域特性を踏まえた幾何  構造の使用値となっているか。  5) 隣接工区や土工、橋梁、トンネル等との取合い（路肩摺り付け、  翼壁，排水処理，構造物掘削等）を配慮したか。  6) 幅員の決定根拠は明確で適正か。（道路規格との適合、積雪寒  冷地の適用及び堆雪幅、道路付属施設に配慮した有効幅員の  確保など）  7) 溝渠工の上部では排水施設や通信管路等埋設物、防護柵の設置  に必要な土被りが確保されているか。  8) 交差施設との交差条件は明確か。（交差方法、交差角、幅員、  建築限界、余裕高など）  9) 分合流部の幾何構造採用値は適正か。また、分流部のオフセッ  トについて確認したか。  1）用地上の幅杭表はあるか。  2) 用地に関する制約は確認したか。  3) 用地巾の過不足はないか。  1) 関連機関（関係諸官庁、諸機関）との調整内容を確認したか。  2) 河川協議、海岸・地すべり防止・土砂災害警戒区域等との協議、  近接・交差協議、流末協議は適切に実施されているか。  3) 交差協議の調整は確認したか。  (特に幅杭設計後の変更の確認)  4) 地元及び地権者との調整は確認したか。  (特に幅杭設計完了後に用排水工の変更の確認)  5) バス路線になるかどうか確認したか。  6) 地下占有企業者との調整は確認したか。  7) 砂防指定、保安林及び埋蔵文化財等との調整は確認したか。  8) 各県公害防止条例の適用 区域及び規制値を確認したか。  9) 都市計画及び土地利用、用途地域、借地の有無等を確認した  か。  10) 配慮すべき法令は確認したか。  11) 本線外盛土場、または土取場の位置、規模は確認したか。  1) 平面線形との組合せ条件を確認したか。  2) 付加車線区間とすり付け位置は確認したか。  3) 連絡等施設における4車から2車へのすり付け区間と  位置を確認したか。  4) 橋梁、トンネル等の位置及び延長を他の設計より整理  し確認したか。  5) 交差構造物のクリアランス等及び凍上対策が必要かを  整理し確認したか。  1) 幅杭設計の成果 (1/1,000平面図)を修正する必要が  あるかを確認したか。  2) 図面修正に於ける協議関連等の条件整理をしたか。  3) 付加車線区間は追越車線方式か、登坂車線方式かを確  認したか。  4) 付加車線のすり付け方法について整理し確認したか。  5) 停止視距、追越し視距の確保に使用する速度を確認したか。  6) 積雪寒冷地に於けるチェーン着脱場の設置が必要かを  確認したか。  7) のり面勾配及び形状は、完成形か、暫定形かを確認したか。  8) 側道等に於いて他機関 (市町村等)の施行となる区間  の有無を確認したか。  9) 幅杭設計の積算用横断図を補足修正する箇所及び項目  を確認したか。  1) 用水系統は適正か。また、用水路の統廃合について、土地改良  区や地元での聞き取り調査等、関係者との調整は整っているか。  2) 幅杭設計に於ける完成時の流末排水の取付け位置、排  水系統及び用排水構造物の形状を確認したか。  （曲線部の片勾配高さを反映）。また、水路管理者等と  調整を行っているか。  3) 盛土構造の基盤排水、法尻排水は適正か。また、切盛境、片切  片盛り、沢部盛土等の排水処理は適正か。  4) 調整池や油水分離桝設置の必要性や関係機関との協議結果を  確認したか。  5) 流末協議（放流先や途中の既設水路）は適正に実施されているか。  1) 実施済みの設計に、追加、変更する必要があるか、確  認したか。  2) 軟弱地盤の分布について調査・確認されているか。また、存在  する場合、対策の必要性、工法等が整理されているか。  3) 盛土の施工期間及び施工方法(迂回路計画等)は決まっているか。  4) 盛土施工厚と施工工程とのバランスがとれているか。(緩速盛  土、プレロード及びサーチャジ工法等の地盤強度増加と施工時  及び完成後の盛土の安定性）  5) 残留沈下量と交通解放時期の基本方針は決定しているか。  6) 地質調査は目的にあった調査、解析をしているか。  7) 盛土材の土質試験はしてあるか。また、その土質定数は把握し  ているか。  8) 軟弱地盤解析項目（円弧すべり、圧密沈下、液状化）の許容値  は適正か。また、周辺の土地利用を考慮した許容値としているか。  9) 軟弱地盤上に設置される溝渠の場合、残留沈下量に対する内空  断面の対策は考慮されているか。  10) 環境、用地に対する制限はないか。また、影響を検討する家  屋や施設、地下埋設物はないか。  11) 置き換え残土の処理場はあるか。  12) 側方流動の影響を受ける構造物(擁壁、橋台等)及び沿道施設  はないか。  1) 実施済みの設計に、追加、変更する必要があるか、確認したか。  2) 土質定数（湿潤重量、飽和重量など）の設定、地下水位、湧水  状況等の把握は適正か。また、地質データが不足する場合、  追加調査の提案等を行ったか。  3) 切土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅、ラウンデ  ィング形状は適切か。  4) 盛土に対するのり面勾配及び小段の勾配、位置、幅は適切か。  5) 切土あるいは盛土による斜面の安定検討は必要か。  6) 切土材料は盛土材料に転用できるのか。  7) 法面対策工法の必要性について整理しているか。  8) 土砂の処理場や採取場及び土運搬経路の把握はしてあるか。  9) 環境や景観に関して考慮しているか。  10) 盛土材の設計条件は適切か。  　・盛土材料の使用区分、建設発生土利用（スレーキング材、  　　高含水材等）への配慮  　・盛土材物性値（路体盛土の土質定数、路床盛土のCBR）"  11) 土質定数は溝渠工・擁壁工設計との整合性を考慮して設定し  ているか。  1) 標準設計の適用方法は適正か。  2) 同上を適用しないときは応力計算が必要か。  3) 防護柵の要・不要の確認。(内空断面の再確認)  4) 従来型カルバートの適用範囲内か、また、重要度区分、要求性  能は決定しているか。  5) 耐震設計が必要な場合、設計手法は適切か。  6) プレキャスト製品の適用方法は適正か 。市場性や地域性など  を考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を確認  したか。  7) 施工条件を考慮しているか。  8) 縦断方向のすべりに対する対策は必要か。  9) 縦断方向（構造物方向）の設計の必要性は確認したか。  10) 踏掛版の必要性を確認したか。（ヤード、資機材運搬路等）  11) 溝渠内、溝渠頂版上部の防護柵の必要性を確認したか。  12) 土被りの条件は妥当か。(設計計算)  13) 地被りによる断面変化は考慮してあるか。  14) 土質定数の決定根拠は明確になっているか。  15) 地盤条件 (支持力、地下水位等) は整理してあるか。  16) 設計計算の条件は妥当か。計算式の適用は確認されて  いるか。  17) 適用する設計基準は確認されているか。  18) 躯体の延長やウイングの形状（高さ、長さ、巻き込みとの取  り合い）の決定根拠は適正か。  19) 内空断面（幅員、建築限界、河川条件、溝渠内舗装、路面排  水施設、占用物件（証明、水道、ガスなど）、片勾配、照明、  平面形状、縦断勾配の設定は適正か。  20) 塩害に対する検討の必要性を確認したか。  1) 自動設計の適用方法は適正か。  2) 所要高さ決定の根拠は適正か。道路線形との整合はとれている  か。  3) 種別・型式選定の根拠や適用範囲（高さ、延長、地形条件等）  は適正か。  4) 線形の変更、用地の利用、擁壁構造変更等によって擁壁の規模  縮小が可能か。また、工夫を行う余地があるか。  5) 標準設計の適用方法は適正か。（擁壁形式、高さ、地盤条件、  背面土の形状）  6) 同上を適用しないときは応力計算が必要か。  7) 耐震設計が必要な場合、設計手法は適切か。  8) 二次製品の適用は適正か。市場性や地域性などを考慮して  いるか。また、隣接工区での使用状況等を確認したか。  9) 用地境界までの余裕幅を確認したか。  10) 土質定数の決定根拠は明確になっているか。  11) 基礎型式選定のための地盤条件は整理されているか。  12) 施工条件（現道交通、施工ヤード、資機材運搬路）を考慮し  ているか。  13) 現道交通、隣接家屋への影響を配慮したか。  14) 全体的なすべりの安定性は確認したか。  15) 設計計算の条件は妥当か。計算式の適用は確認されているか。  (プログラム等)  16〉 適用する設計基準は確認されているか。  17) 擁壁の重要度区分、要求性能の設定は適切か。  18) 衝突荷重を見込む構造か。遮音壁は設置されるか。  また、その場合の風荷重は適正か。  19) 地覆、高欄、防護柵、転落防止柵は適正か。  20) 塩害に対する検討の必要性を確認したか。  21) 根入れやフーチング上の土被りは適正か。（交差条件等）  1) 幅杭設計の成果に対する修正範囲を把握したか。  2) 修正に必要なトンネル設計及び橋梁設計等の成果品を  確認したか。  1) 降雨強度、確率年、算定式、流出係数、粗度係数の設定は適正か。  2) 通水量の算定は妥当か。(粗度係数等)  3) 路肩側溝や横断管などの排水施設の選定は妥当か。  （経済性、施工性、機能性、計画性、維持管理）  4) 断面余裕の設定は適正か。  5) 排水勾配(流速の許容範囲)は妥当か。  6) 最小土被りの設定は妥当か。  7) 協議が必要となる関連機関、協議事項について整理・把握され  ているか。  8) 地下排水工（地下排水溝、水平排水層、基盤排水層等）や盛土  内水平排水工は適切に設置されているか。また、地盤条件は  考慮しているか。  9) 排水構造物は排水性舗装に適合しているか。  10) 地下埋設物との調整（占用者との協議を含む）は確認したか。  11) プレキャスト製品の適用方法は適正か。市場性や地域性など  を考慮しているか。また、隣接工区での使用状況等を確認したか。  1) 設計条件を確認したか。（交通量区分、舗装の設計期間、舗装  の種別、疲労破壊輪数、舗装計画交通量、信頼度、設計ＣＢＲ、  必要ＴA、適用箇所、寒冷地域の凍結深さ等）  2) 仕様規定か性能規定を確認したか。  3) 規定条件を満足しているか。  4) 再生材の使用は考慮されているか。また、再生材は所定量入手  可能か確認したか。  5) 特別箇所(軟弱地盤、低盛土等)の路床改良の要否を確認した  か。  6) 路盤材料は市場性や地域性などを考慮しているか。また、隣接  工区での使用状況等を確認したか。  1) 設計が必要な付属施設や道路施設は確認されているか。  2) 配置及び規格は適正か。  3) 種別及び設置条件は適正か。  4) 設置のための事前調査は実施されているか。  5) 防護柵の要否、設置基準の確認、種別の選択、設置条件、標準  仕様の適用等は適正か。  6) 景観、環境及び歩行者の安全に配慮されているか。  1) 幅員、延長、断面、道路幾何構造は適正か。  2) 沿道に対する高さ等の取合は考慮してあるか。  3) 舗装構成は決定しているか。  4) 関連協議で必要事項は確認されているか。  1) 雪崩、地吹雪対策は考慮する必要があるか。  2) 雪況調査は実施されていたか。  3) 対策工設置のための用地を設定したか。また埋設物や支障物件  を確認したか。  1) 景観検討の必要性、方針、内容、範囲等を理解したか。  また、遮音壁等の設置要件（位置、基礎構造）に問題はないか。  2) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなってい  るか。  1）設計施工基準を持たない新しい材料・製品・構造部材等の  　採用条件及び採用範囲は確認したか。 | 作業計画書  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  現場写真他  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃    〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  用地幅調書  設計図書  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃    〃  〃    〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  報告書  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  報告書  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  打合せ・記録簿 |  |  |  |

## 細部条件及び図面作成等の照査項目一覧表 (道路詳細設計)

(照 査②)

幅杭設計4車線設計後の暫定2車線設計

細部条件及び図面作成等の照査項目一覧表（道路詳細設計2）

| No. | 項目 | 主な内容 | 提示資料 | 照査② | | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象 | 照査 |
| 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  11  12  13  14  15  16  18 | 協議関連  設計基本条件  一般図  縦断設計  平面図作成  縦断図作成  横断図作成  土工及び法面工  溝渠工  共通  ボックスカルバート  門型カルバート  アーチカルバート  本線用カルバート  パイプカルバート  擁壁工  共　　通  U型擁壁  もたれ擁壁  補強土壁  用排水設計  舗装工  付属施設  軟弱地盤対策工  施工計画  環境及び景観検討  共通工 | 1）協議は諸条件と合致しているか。  1）新技術の採用について検討したか。  1）平面図、縦断図、横断図は設計基本条件と整合が図られてい  るか。  1) 平面線形との組合せは適正か。  2) 付加車線区間及び連絡等施設における4車線から2車  へのすり付け区間に於ける縦断計画は適正か。  3) コントロールポイントとなる交差構造物とのクリアランス  は暫定時に於いても確保されているか。(凍上対策も含む)  4) 2車施工時に於ける切盛の土量バランスを考慮したか。  5) 暫定時・完成時共に路面排水を考慮した縦断計画をし  ているか。  1) 1/1,000平面図及びその他平面図  a）幅杭設計の成果品の修正は適正か。  b) 4車、2車区間及び付加車線区間の表示は適正か。  (すり付け区間も含む)  c)長大橋梁及びトンネル区間と土工区間の平面すり付  けは適正か。  d) 橋梁、トンネル及び交差構造物は2車施工として適  正に表示されているか。  e) 長大橋梁及びトンネル区間に於ける平面すり付けは適正か。  f) 視距の確保による拡幅は適正に表示されているか。  9) 取付付替 道水路、側道、用排水路等 は適正に表示さ  れているか。(2車施工用)  h) 付加車線のすり付は適正に表示されているか。  i) 連絡等施設における4車から2車へのすり付は適正  に表示されているか。  j) 積雪寒冷地におけるチェーン着脱場の表示は適正か。  k) 側道等に於いて他機関 (市町村等)の施行区間の表  示は適正か。  l)2車施工時の排水系統図との整合性を確認したか。  2) 1/500平面図 (連絡等施設)  a) 1/1,000平面図、縦・横断図、及び排水系統図等よ  りの展開は適正に表示されているか。  3) 1/200詳細平面図 (連絡等施設)  a) 平面及び縦断線形は適正か。  b) 幅員線 (車線、側帯、路肩、保護路肩、積雪寒冷地  に於ける管理用施設帯)の表示は適正か。  c) 幅員及び路面計画高の表示は適正か。  4) 平面線形図  a)線形の変化点、IP点及び座標値の記入は適正に表示  されているか。  b) 線形の始終点及びノーズ点における離れは適正に表  示されているか。  5) 伐開除根求積図  a) 伐開除根の範囲は適正か。  b) 伐開除根土の処理方法について  6)路線図  a) 橋梁及びトンネルの表示は適切か。  b) 交差する主要道路及び河川等の名称表示は適切か。  c) 工事用の表示は適切か。  d) 土取場・本線外盛土場の表示は適切か。  1) 橋梁、トンネル及び構造物等の作図と旗上げに不都合  はないかを確認したか。  2) ボーリング柱状図は正確に記載されている事を確認し  たか。  3) 切盛境の路床すり付けは明示されているかを確認したか。  4) 線形の変化点等、基本点及び数値の表示は正確かを確  認したか。  5)片勾配のすり付け表示は適切か。  6) 軟弱地盤処理工及び地すべり等の対策工を土質・地質  調査報告書との整合を確認したか。  7) 提案し採用された軟弱地盤処理工及び地すべり等のり面保護工  が適正に表示されているかを確認したか。  1)横断図  a) 幅員構成要素とその値は適切か。  b) 特殊部の位置及び構成要素とその値は適切か。  (堆雪余裕幅、遮音築堤、登坂車線、非常駐車帯、視距拡幅)  c) 片勾配のすり付け及び合成勾配は適切か。  d) 切土・盛土の小段高、小段幅、のり勾配は適切か。  e) 切土部の保護路肩の構造は適切か。  f) のり面保護工の選択は適切か。  9) 切土部に設覆する側道の小段勾配は適切か。  h) 橋梁、トンネルとの整合はとれているか。  i) 排水工検討からの修正 (断面、高さ、勾配) はされているか。  j) 付加車線及びそのすり付区間の図化は適正か。  k) 連絡等施設における4車から2 車へのすり付け区間の  図化は適正か。  l) 積雪寒冷地におけるチェーン着脱場等の管理施設の  図化は適正か。  m) 平面展開から取付・付替道路 (水路)との整合がと  れているか確認したか。  n) 土工基面部の旗上げ、高さ表示はされているか。  o) 断面積、のり長、のり面仕上げ等の記入旗上げはさ  れているか。  p) 軟弱地盤処理工及び地すべり等の対策を土質・地質  調査報告書との整合性を確認したか。  q) 側道等に於いて他機関 (市町村等)の施行区間等の  表示は適正か。  2) 標準横断図作成  a) 作成箇所 (STA) は適切か。  b) 横断面構成の表示は適切か。  3） 横断軸線図 (連絡等施設)  a) 測量及び幅杭設計の成果品との整合を確認したか。  b) 表示は適正か。  1) 岩盤推定線は記入されているか。  また、その根拠が整理されているか。  2) 用地の余裕幅は適正か。  3) 法面保護工の選定は適正か。また、法面対策工法（アンカー、  ロックボルト）の計算根拠は適正か。  4) 法面構造（勾配、形状、小段、排水施設等）は適正か。  5) 盛土に要求される性能は満足するか。  6) 排水対策は適正か。  1) 本体長、伸縮目地及びブロック割りの決定方法は適正か。  2) 軟弱地盤上に構築される場合の鉛直土圧係数は考慮してある  か。(杭基礎などの場合)  3) 沈下の大きい場所での特別の処置(段落ち防止枕等）は考慮して  いるか。  4) 不等沈下はないか。  5) 標準設計適用以外の応力チェックはされているか。  6) ハンチの形状は妥当か。  また、ハンチを設けない場合の部材厚は適切か。  7) ウイングの厚さやウィングのハンチの大きさは適切か。  8) 防水工および継手構造は適切か。  9) 照明配管、排水は考慮されているか。  10) 構造細目および配筋に対するチェック（使用鉄筋径、組合せ、  鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、フック形状、  スターラップ筋の加工形状等）はされているか。  11) ウイングの形状及び設計計算は妥当か。  12) 基礎地盤の状態及び施工性は考慮されているか。  13) 置換え基礎及び基礎工の選定は適切か。また、隣接する擁壁  等との基礎工との整合は図られているか。  14) 斜角の付く場合の考慮をしてあるか。  (斜角部の設計方法)  15) 踏掛版の形状、寸法は適正か。  16) 暫定形施工か完成形の施工かの検討を確認したか。  17) 暫定形施工に於けるウィングは適正か。  18) 管理上の問題は残されていないか。（道路、水路等）  19) 現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。また、プレキャ  ストの場合、現場条件と適用条件の整合を確認したか。  20) 耐震設計の方法は適正か。  21) 施工時の切り回し計画は妥当か。  22) 使用材料は明記されているか。さらに、許容応力度は妥当か。  23) 地下水や液状化地盤に対する検討がされているか。  （浮上り検討）  24) 想定している埋戻土の土質定数は適切か。  25) 完成形の一般図を作成し、暫定形施工が将来形に影響  を及ぼさないかを確認したか。  26) 設計計算により使用するプログラムの打合せを行った  か。  1) 活荷重に対する検討を考慮してあるか。  2) 乾燥収縮、温度変化に対する検討は適切か。  3) アンダーパス、貯留型避溢カルバート等に於ける  水圧の影響を考慮した検討がなされているか。  4) サイロ効果の検討は適切か。  5) 軟弱地盤におけるカルバートの上げ越しと、内空断面  の余裕は適切か。  1) 地震時の応力検討は適切か。  2) 乾燥収縮、温度変化に対する検討は適切か。  3) ストラットの考え方は適切か。  1) 軸線は施工性、経済性を考慮したものとなっているか。  2) 荷重の組合せ (活荷重、土圧、雪荷重等) は適切か。  3) 偏土圧による安定度及び部材応力の検討は適切か。  4) 工事用車輌も含めた施工応力の検討は適切か。  1) 視距及び諸施設の設置空間断面となっているかを確認  したか。  2) 舗装、排水及び躯体の形状は適切か。  3) 活荷重の載荷位置は適切か。  4) 衝突荷重、乾燥収縮、温度変化に対する検討は適切か。  1） 活荷重及び死荷重等の荷重係数は適切か。  2）管種 (継手を含む) 及び基礎の選定は適切か。  3) 半溝型及び突出型に於ける設計条件は明示されているか。  4）インレット、アウトレットの構造等は適切か。  5）インレット、アウトレットは完成形を考慮しているか。  6) 軟弱地盤上の配慮は適切か。  1) 擁壁高さの決定、地山の取合、底面の勾配は適正か。  2) 型式選定の根拠は適正か。  3) 線形の変更、用地の利用 等によって擁壁の規模縮小が  可能であるかどうか工夫したか。  4) 背面土の適用は適正か。(施工時の安定性等)  5) 目地間隔は適正か。  6〉液状化の検討は適正か。  7) 基礎工の選定は適正か。また、斜面上の基礎の場合、地盤の傾  斜を考慮した検討を行っているか。  ・直接基礎 (地盤反力、安定、置換深さ等)  ・杭基礎 (杭間隔、杭種、杭径、定着方法等)  8) 根入れ深さは適正か(土質条件、水の影響)、斜面部で  の余裕幅は適正か。  9) 地下水、湧水等の処理について考慮してあるか。  10) 施工性を考えた構造となっているか。  (地形その他の現場条件による機械の選定条件等)  11) 応力計算時の常時、地震時の選択は適正か。  12) 耐震設計の方法は適正か。  13) 擁壁天端のステップ幅は確保されているか。  14) 防護棚の要否及び支柱基礎に対する検討をしたか。  15) 配筋に対するチェックはされているか。  16) 擁壁天端に作用する荷重は適正か。（衝突荷重、風荷重等）  17) 地下埋設物との取り合いは問題ないか。  18) 構造細目は妥当か。（使用鉄筋径、組合せ、かぶり、ピッチ、  継手、折り曲げ位置、フック形状、スターラップ筋の加工形状、  補強材の長さ等）  19) 使用材料は明記されているか。さらに、許容応力度は妥当か。  20) 想定している埋戻土の土質定数は適切か。  21) 設計計算により使用するプログラムの打合せを行った  か。  1) 水平方向及び鉛直方向の地盤反力係数は適正か。  2) 地下水の影響を考慮し、浮力に対する安定性の検討は  適正か。  1) 路肩付近に設置する擁壁の場合根入れ深さ及び底面幅  は道路横断構成、管理用施設、及び排水構造物等の条  件に対し適切か。  1) 設計荷重の組合せは適正か。  (自重、載荷重、土圧、雪荷重、道路防護棚への衝突  荷重、地震時)  2) 最少土被り厚、縦断勾配の処理、排水処理は適正か。  3) ストリップの水平間隔及び長さは適正か。  4) 段違い部の基礎工は掘削線を考慮しているか。  1) 暫定時に於ける集水面積区分は妥当か。  2) 追加施工側の通水断面は適切か。  3) 排水構造物の工種選定は完成施工時を考慮したか。  4) 暫定時排水系統と完成時排水系統とは合致するかを確認した  か。  5) 排水施設相互及び道路施設との取合いは考慮されているか。  6) 安全対策(蓋、防護柵等)は考慮されているか。  7) 流末はチェックされているか。  (流末河川のＨＷＬより下の場合の対策が行われているか。）  8) 最終流末までの流下能力、断面に不足は無いか。  9) 排水系統図を作成しているか。また、排水系統は適正で、協議  結果が反映されているか。  10) 現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。また、管理者の  指定する基準等に準じているかを確認したか。  11) 設計区間外の施設との取合いは考慮されているか。  12) 既設水路等の付替えは、必要に応じ切廻しを検討してあるか。  13) 道路路面の片勾配摺付け区間において、路肩排水施設等の滞水  は無いか。  14) 排水ますと縦断サグ点との位置関係に問題はないか。  1) 舗装工の設計は適正か。（舗装材料、舗装構成、構築路床等）  2) 段階施工のできる設計となっているか。  3) 再生材の使用は適正か。  4) 従道路及び車輌乗り入れ部の舗装構成は適正か。  1) 設計が必要な交通安全施設（防護柵、照明施設等）、交通管理  施設（情報ボックス、道路標識、マーキング等）等は確認  されているか。  2) 標準設計図集の適用は適正か。  3) 道路条件（幅員、断面形状等）を確認したか。  4) 土質条件は適正か。  5) 型式及び形状の選定は適正か。  6) 基礎工の選定は適正か。  1) 土質定数は整理されているか。  2) 盛土工程は適切か。  (一般盛土部、構造物、交通、水路切り廻し等)  3) 対策工の必要性と工種及びその範囲は適正か。また、構造物基  礎工と連動して、改良余裕幅や緩衝帯の設置を確認したか。  　・盛土安定対策  　・沈下対策  　・液状化対策  　・その他"  4) サンドマットの厚さは施工性を考慮したか。  5) 動態観測の計画は作成されているか。  6) 暗渠排水計画(形状、間隔)は適正か。  7) 沈下量を土量計算しているか。  8) 用排水路で沈下すると不都合なものはないか。ある場合はその  対策は適切か。  9) 周辺地盤・施設に対する影響を確認し、必要に応じて対策方法  を検討しているか。  1) 工区分けは適正か。(暫定施工の有無を含む)  また、土量バランスや搬土計画を考慮しているか。  2) 他事業や他工事との土配処理等の整合を確認したか。  3) 打合せ事項は反映されているか。  4) 施工方法及び手順は妥当か。また、他工区と施工時期の調整は  取れているか。支障物や埋設物の撤去・移設は考慮しているか。  5) 暫定施工の考え方（幅員の整合、線形のすりつけなど）に問題  はないか。  6) 工事用道路（長尺物等の搬入）の経路・勾配は妥当か。  1) 事業中、完成後の環境対策（騒音・振動、自然由来の重金属、  動植物等）は妥当か。また、騒音・振動等は規制値を  満足しているか。  2) 景観(植裁等)性は妥当か。  1) 道路構造物の部材の一部の損傷等が原因となって構造等の  　崩壊等の致命的な状態に陥る可能性を回避した設計となって  　いるか。  2）点検や調査を行うための通路が確保されているか。  3）補修・補強が想定される部材について、補強・補修を行う  　想定ができた設計とされているか。  4) 設計要領との違い、設計要領に基づかない場合の根拠の記述  　はあるか。 | 打合せ・記録簿  打合せ・記録簿  設計図書  設計図書  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  設計図書  〃  〃  設計図書  〃  設計図書  報告書  設計図書  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  設計図書  〃    設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書及び  設計計算書・  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  設計計算書  〃  〃  〃  設計計算書及  設計図書  設計計算書  〃  設計図書  設計図書  設計計算書  〃  〃  設計図書  及び報告書  設計図書  設計計算書  〃  設計計算書  設計図書  〃  〃  〃  〃  設計図書及び  設計計算書・  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  設計計算書  〃  設計計算書  設計計算書  設計図書  〃  〃  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  打合せ・記録簿  〃  設計図書  打合せ・記録簿  〃  〃  〃 |  |  |  |

## 成果品の照査項目一覧表 (道路詳細設計)

(照 査③)

幅杭設計4車線設計後の暫定2車線設計

成果品の照査項目一覧表（道路詳細設計3）

| No. | 項目 | 主な内容 | 提示資料 | 照査③ | | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 対象 | 照査 |
| 1  2  3  4  5  6  7  8  9  10  11 | 土量集計及びマスカーブ  詳細図作成  設計計算書  設計図  数量計算書  施工計画  設計調書  設計概要書  赤黄チェック  報告書  TECRISの登録 | 1) トンネルズリ及び構造物残土等の流用土を考慮したか。  (別途設計のトンネル詳細設計及び橋梁詳細設計等の参照)  2) 道路等施設に於ける土量配分を考慮したか。  3) 土量変化率及び土量の補正は適正か。  4) 横方向土量を考慮しているかを確認したか。  5) 盛土に於ける控除土量の算出は適正か。  1)施工図  a) メーソンリ一工及び特殊のり画工等の展開図は(寸法も含む)  適正か。  b) 基礎地盤安定工等に於ける施工範囲の表示は適正か。  c) 細部詳細材料表 (品名、材質、単位、数量等)及び  寸法の表示は適正か。  2)詳細図  a) 縮尺及び図の配置は適切か。  b) 材料表(品名、材質、単位、数量等)の表示は適正か。  1) 打合せ事項は反映されているか。  2) 設計条件、施工条件は適正に反映されているか。  3) インプットされた値は適正か。  4) 各検討設計ケースは適切か。  5) 安定計算結果は許容値を満たすか。  6) 荷重、許容応力度の取り方は正しいか。  7) 用排水の流出量と通水量を照査したか。  8) 荷重図、モーメント図等は描かれているか。  9) 施工を配慮した計算となっているか。  10) 応力度は許容値を満たしているか。また、単位は適正か。  11) 隣接工区との整合はとれているか。  12) 赤黄チェック等による指摘内容に基づき、設計計算書を適正に  修正したか。  13) 図・表の表示は適正か。  1) 縮尺、用紙サイズ等は契約図書及び共通仕様書、または、特記  仕様書と整合しているか。  2) 打合せ事項は反映されているか。  3) 構造物 (溝渠、擁壁等) の全体一般図に必要な項目は  記載されているか。(設計条件、地質条件等)  4) 工事にあたっての留意点を記載したか。  5) 起点・終点は適正か。  6) 必要寸法、部材形状及び寸法等にもれはないか。  7) 使用材料及びその配置は計算書と一致しているか。  8) 設計図に防護柵の材料の仕様を明記しているか。  （T-20対応，JIS番号，防錆処理HDZ55等）  9) 表現方法は適正か。  10) 解り易い注記がついているか。  11) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。  （特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合  しているか。）  　・かぶり  　・壁厚  　・鉄筋（径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、  　　主鉄筋の定着長、段落し位置、ガス圧接位置）  　・鋼材形状、寸法  　・使用材料  　・その他  12) 補足修正又は変更となる箇所及び項目の設計及び図面作成は  適正か。  13) 側道等に於いて他機関施行となる区分の表示は適切か。  14) 鉄筋同士の干渉はないか。  または鉄筋と干渉する部材がないか。  15) 施工に配慮した設計図となっているか。  16) レイアウト、配置、文字サイズ等は適切か。  17) 赤黄チェック等による指摘内容に基づき、設計図を適正に  修正したか。  18) 図面が明瞭に描かれているか。（構造物と寸法線の使いわけが  なされているか。）  19) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。  1) 数量計算は数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。  (有効数字、位取り、単位、区分等)  2) 数量計算に用いた寸法、数値、記号は図面と一致するか。  3) 数量取りまとめは、種類毎に、材料毎に、打合せ区分毎に  まとめられているか。  4) 数量計算の根拠となる資料（根拠図等）は作成しているか。  5) 赤黄チェック等による指摘内容に基づき、数量計算書を適正に  修正したか。  6) 施工区分及び段階施工、暫定施工を考慮した数量計算書となっ  ているか。  7) 工種・種別・細別は工種別体系と一致しているか。  8) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと整合  し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。  9) 使用する材料の規格及び強度等は記入されているか。  1) 施工方法、施工手順が妥当であるか。  2) 施工時の道路、河川等の切り廻し計画は適正か｡  3) 経済性、安全性が配慮されているか。  4) 工事用道路、運搬路計画は適正か。  5) 施工ヤ－ド、施工スペ－スは確保されているか｡  6) 暫定計画、完成計画との整合はとれているか。  7) 全体事業計画との整合が図られているか。  8) 関係法令を遵守した計画になっているか。  9) 施工に対する申送り事項が記載されているか。  1) 設計調書の記入は適正になされているか。  2)設計条件、幾何条件、主要寸法、主要数量（例、m2当たりコン  クリート量、m3当たり鉄筋量、㎡当たり鋼重等）を類似例、一  般例と比較する。  1）設計概要書は作成したか。  1）赤黄チェック等により照査したか。  1) 報告書の構成は妥当か。また、特記仕様書の内容を満足してい  るか。  2) 打合せ協議事項は反映されているか。  3) 条件設定及び設計条件の考え方が整合しているか。  4) 比較、検討の経緯及び結果が整理されているか。  5) 今後の課題、施工上の申し送り事項及び工事発注に際しての留  意事項が記述されているか。  6) 設計基準値を技術指針等より引用している場合には出典図書名  及びページを明記しているか。  7) 「調査等業務の電子納品要領」に基づいて適正に作成したか。  1）TECRISの登録はされたか。  2) TECRISの内容について、発注者と確認を行ったか。 | 数量計算書  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  設計図書  〃  設計計算書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計図書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  数量計算書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  〃  設計調書  〃  報告書  設計図書  赤黄チェック  報告書  〃  〃  〃  〃  〃  〃  登録証明書  〃 |  |  | ※赤黄チェックの資料は  監督員に提出し、確認結  果の回答時に返却する |